

製品名: パーキン (リン酸化 Ser131) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05212

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	PARK2
別名	PARK2; PRKN; E3 ubiquitin-protein ligase parkin; Parkinson juvenile disease protein 2; Parkinson disease protein 2
遺伝子 ID	5071.0
SwissProt ID	O60260
免疫原	抗血清は、Ser131 のリン酸化部位周辺のヒトパーキン由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 101-150

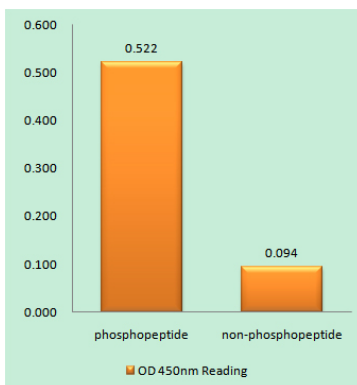
背景

この遺伝子の正確な機能は不明ですが、コードされているタンパク質は、プロテアソーム分解のための基質タンパク質の標的化を媒介する多タンパク質 E3 ユビキチンリガーゼ複合体の構成要素です。この遺伝子の変異は、パーキンソン病および常染色体劣性若年性パーキンソン病を引き起こすことが知られています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。この遺伝子の追加のスプライスバリエーションが報告されていますが、現在のところ転写産物の裏付けがありません。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: PARK2 の欠陥はパーキンソン病 (PD) の原因です[MIM:168600]。PD は複雑な多因子疾患で、通常は 50 歳以降に発症しますが、早期発症例 (50 歳未満) も知られています。

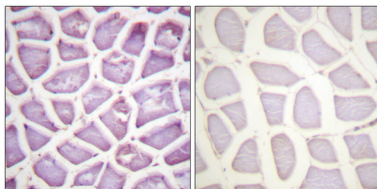
研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解、パーキンソン病

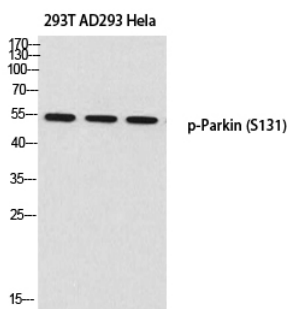
画像データ



Parkin (リン酸化 Ser131) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



Parkin (リン酸化 Ser131) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



p-パーキン (S131) 抗体を用いた 293T AD293 Hela のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。